

## Bonnart, Nicolas et al.

*Collection of costumes of the XVIIth century in France.*

[S. l.] [s. n.], [1675-1695]. lvol. 201 plates (copper mono.). 37×26cm. <K383.135-C> 文献番号 3-53

ボナールほか『17世紀フランスの服飾図集』

本書は、17世紀の腐蝕銅版による服飾図集であり、1675年から1695年までの201枚（未完成作品4枚を含む）の図版を収録しているが、90年代の綿密なエッチングが圧倒的に多い。緑色のペラム（子牛の皮）で装丁された本書は、標題紙もなく背に Livres des temples (Livres d'estampes の誤りか?) 『版画集』とだけ記されたフォリオ判の自家製本で、もちろん文献目録には載っていない。作家とその作品分布は次の通りである。

H. ボナール (Henri Bonnart, 1642-1711) 25点, N. ボナール (Nicolas Bonnart, 1646-1718) 28点, R. ボナール (Robert Bonnart, 1652-1729) 25点で、ボナール兄弟が図集の1/3以上を占め、A. トゥルーヴァン (Antoine J. V. Trouvain, 1658-1708) 25点, サンジャン (Jean de Dieu Saint-Jean, dit) 58点, N. アルヌー (Nicolas Arnoult) 30点, その他デゼエ (Deshayes), P. ヴァルラン (Valleran), G. イオラーン (Iollain) など服飾版画としてはいずれも当時の一流の作家たちによるものである。

16世紀後半に普及し始めたエッチングは、17世紀にはその技法の最盛期を迎えて多くの優れた版画家たちを輩出した。フランスではイタリアのバロック様式を受け継ぎ、これがルイ14世の時代精神に照応して芸術・服飾風俗に見事に反映された。こうして17世紀は、フランスの歴史のなかでも最も豊かな繁栄を見せた時期であった。ルイ14世は1643年に5歳で王位につき、その後治世は72年間にも及んだ。王は豪華な生活と領土欲によって軍備を拡張し、絶対王政を確立して名実共に〈偉大なる世紀〉にふさわしい絢爛豪華な時代を現出した。すべての重臣や貴族たちは身边をきらびやかに飾り立てることによって〈太陽王〉の威力と尊厳をたたえることに熱中した。本書の図版の一枚一枚は、まさにそのフランス文化の絶頂期を示す確かで具体的な証言になっている。本書の価値を高めている理由もそこにある。

次頁の図1はR. ボナール画「フランス領ババリア地方の公爵夫人」1694年。ロベール・ボナール (Robert Bonnart) は、ルイ14世治下のフランス宮廷人の肖像を主とした多数の銅版画で名高いボナール四兄弟の三男。長男のアンリと次男ニコラは、サン・ジャック通りに版元を設立し、兄弟たちの作品を出版した。この作品はニコラの店で刷られた。公爵夫人はレースのフォンタンジュを被り、裾を長く引いたマントを後方にたくし上げ、プレタンターユ（切抜き飾り）をはりつけたスカート、レースの胸飾り、バラティヌ（毛皮のスカーフ）、つけぼくろ、流行のリボン巻き付けたマフ、扇など重厚で豪華なルイ14世時代後期の貴婦人の特徴をよく現している。

図2は、サン＝ジャン画「テッケリ地の上着を着た貴族」1694年。作者のサン＝ジャン (Saint-Jean) は通称で、正しくはディウ・ジャン・ド (Dieu Jean de) である。17世紀の後半から18世紀初頭にかけて数々の名作を残した服飾銅版画家・肖像画家であること以外、詳細は不明である。この作品は、ルイ14世時代の洒落者を描いた傑作として知られる。髪粉をふりかけ、当時流行の巻毛の鬘に駝鳥の羽飾りのあるつば反り帽子。クラバットはスティンケルク風に首に巻き付け、読物を小脇にかかえて、嗅ぎたばこを嗅いでいる。腰には毛皮の巨大なマフがリボンで吊されている。(内野)



図1 フランス領ババイア地方の公爵夫人 1694年



図2 テッケリ地の上着を着た貴族 1694年